

第2学年 社会科学習指導案

日 時 平成23年10月28日(金) 4校時
学 級 2年A組
(男子18名、女子15名、計33名)
場 所 一関市立千厩中学校2年A組教室
授業者 教諭 金 野 正 洋

1 単元名 「世界と日本の自然環境」 『4 世界の気候のようす』

2 単元について

(1) 教材について

本単元は、新学習指導要領に示された「(2) 日本の様々な地域」の「イ 世界と比べた日本の地域的特色」の内容のうち、「(ア) 自然環境」を扱う。ここでは、世界的視野から日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色を理解させるとともに、国内の地形や気候の特色、自然災害と防災への努力を取り上げ、日本の自然環境に関する特色を大観させることをねらいとしており、日本の地域的特色を、地形・気候・災害などの自然環境の面から世界と比較し、関連付けて学習する。具体的には、①我が国は環太平洋造山帯に属して地震や火山の多い不安定な大地上に位置していることや、②世界の気候や植生では、熱帯から寒帯、砂漠から森林におおわれた地域までみられる中で、我が国の多くは温帯に属し、降水量も多く、森林、樹木が生長しやすい環境にあること、③日本の国土は海に囲まれ多くの島々から構成されていること、④近海は海底に大陸棚が広がり、寒暖の海流が出会い世界的な漁場となっていることを学ぶ。さらに、我が国の地形や気候と関連する自然災害と防災への努力を取り上げることで、日本全体の視野から日本の自然環境を大きくとらえることができる単元である。

(2) 生徒について

社会科に対する興味・関心は比較的高く、日頃は、授業を頑張ろうとする生徒が多い。授業へは、ノートをとったり、プリントでの作業に前向きに取り組んでいる。しかし、教師の問いかけに対する反応が薄く、一部の生徒が答えて授業が進むことが多い。また、資料を読み取ることや自分の考えをまとめて説明することを苦手としている生徒が多い。そこで、資料の読み取りについては読み取るための視点を与えての指導を繰り返し行っている。

(3) 指導について

本単元の指導にあたっては、日本の地域的特色を地形・気候・災害などの自然環境の面から世界と比較・関連付けて学習させることに留意して進めていきたい。また、世界の自然環境については、日本との比較関連づけのための理解であり、各国の自然環境について深入りしないよう留意したい。さらに、自然災害の学習については、生徒は身近な出来事として地震を経験しており、自然災害に対する意識は高まっている。そのことを生かし、今後どのように自然と共生しながら防災対策を行っていくかを考えさせ、自分の考えを述べる場面を設定して力をつけさせたい。

本学級の生徒は、資料を読み取ることや自分の考えをまとめて説明することを苦手としている生徒が多いことから、本単元では雨温図の読み取り場面で、折れ線グラフが気温、棒グラフが気温を表し、横軸が月、左縦軸が気温、右縦軸が降水量を表していることを全体の場面で丁寧に指導することで資料を読み取る力をつけさせたい。また、発表場面を適宜設け、積極的な姿勢を身に付けさせたい。

3 社会科における「活用を意識した学習活動」のとらえ

社会科においては、以下のような学習活動を、「活用を意識した学習活動」ととらえる。

(1) 資料から課題解決のために必要な情報や事実を読み取る学習活動

- (2) 読み取ったことをもとに、社会的事象の意味・意義を考察し判断する学習活動
- (3) 社会科における用語や概念を使用し、社会的事象について説明する学習活動
- (4) 考えたことを実社会、実生活と関連づけ、自分の考えを伝え合う学習活動

4 単元の指導目標

(1) 【社会的事象への関心・意欲・態度】

世界的視野や日本全体の視野から見た自然環境について関心をもち、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。

(2) 【社会的な思考・判断・表現】

世界的視野や日本全体の視野から見た日本の自然環境の特色を多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現することができる。

(3) 【資料活用の技能】

適切に選択した情報をもとに、世界的視野や日本全体の視野から見た日本の自然環境の特色を読み取ったり図表などにまとめたりすることができる。

(4) 【社会的事象についての知識・理解】

世界的視野や日本全体の視野から見た日本の自然環境の特色を理解し、その知識を身につけている。

5 単元の指導計画（7時間扱い）

単元	時	学習内容	評価計画				「知識・技能の習得」の場面	「活用を意識した学習活動」の場面
			社会的事象への関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	資料活用の技能	社会的事象についての知識・理解		
世界と日本の自然環境	1	世界の地形のようす	◆地図帳などの資料から世界の地形を大観し、山脈や平原の分布と形成の過程について関心を高めている。		◆地震の多い所や火山と世界の大山脈のとの関係を資料から読み取り、まとめることができる。		○略地図を描き、世界の大山脈を記入する。 ○造山帯の名称とその形成されている位置を調べる。	★火山と世界の大山脈の関係について気づいたことをまとめ、発表する。
	1	日本の山地と海岸			◆日本周辺の海や海岸、海底の地形がさまざまあることを資料から読み取り、まとめることができる。	◆国土における山地・丘陵地の占める割合や、山脈・山地・火山の分布など日本の山脈・山地の特色を理解し、地図上で代表的ないくつかの地名をのべることができる。	○日本のおもな山脈や山地、周辺を流れる海流について調べる。	
	1	日本の川と平野			◆世界と日本の川の規模の違いを資料から読み取ることができる。	◆日本のおもな川とその流域に広がる平野の名称を述べることができる。	○日本の川の特徴を資料から読み取る。	★世界の川と比較した日本の川の特徴を資料から読み取り、まとめる。
	1	世界の気候のようす【本時】		◆気候帯の特色から、その気候帯にあった服装や持ち物を考えることができる。	◆雨温図や資料からそれぞれの気候帯の違いや特色を読み取り、まとめることができる。		○世界の気候が5つの気候帯に分けられることを理解する。	★読み取った特色をもとに世界旅行に行くときの服装や持ち物を考え、発表する。

1	日本が属する温帯の特色	◆同じ温帯でも地域によって違いがあることに興味を持ち、意欲的に追究し、とらえようとしている。		◆三つの温帯の位置や雨温図などの比較を通して、それぞれに見られる類似点と相違点を読み取り、まとめることができる。		○温帯は三つに分けられることを資料から読み取り、その特徴をまとめる。	
1	日本の気候の地域差を見よう		◆日本の気候区分の特色について資料をもとに比較し、まとめることができる。	◆統計表をもとに雨温図を作成し、それがどの気候帯のものであるか指摘できる。		○地域による日本の気候の違いをまとめる。	★日本海側の気候の冬の降水量が多い理由を考え、発表する。
1	自然災害とその対策	◆日本に見られる多様な自然災害やその対策について関心を持ち、意欲的に追究し、とらえようとしている。	◆自然災害を少なくするための防災対策の具体的な方法を調べ、災害時の避難方法や避難場所のあり方について考察し、その過程や結果を適切に表現できる。			○日本で起こる自然災害を調べる。	★災害を少なくするための防災対策の具体的な方法を調べ、災害時のあり方について自分の考えを発表する。

6 本時の指導

(1) 目標

- ① 雨温図や資料からそれぞれの気候帯の違いや特色を読み取り、まとめることができる。
- ② 気候帯の特色から、その気候帯にあった服装や持ち物を考えることができる。

(2) 本時の構想

本時の授業では、雨温図や資料をもとに世界の5つの気候帯の特色を読み取り、各気候帯を旅行するときどのような服装や持ち物が必要かを考えさせることで、世界の様々な気候を身近なものとして捉えさせたい。また、雨温図などの読み取りやその読み取ったことを服装や持ち物という実生活に関わる事象に関連させることで本時の「活用を意識した学習活動」としたい。

(3) 本時の評価規準

	A：十分満足できる	B：おおむね満足できる	C：努力を要する生徒の手だて
社会的な思考・判断・表現	気候帯の植生などから特色をつかみ、その気候帯の季節にあった服装や持ち物について根拠を挙げて考えることができる。	気候帯の特色から、その気候帯にあった服装や持ち物を考えることができる。 評価②	自分の生活を振り返らせ、日本の四季を思い出しながら考えるように支援する。
資料活用の技能	気温や降水量から世界の気候が5つの気候帯に分けられること及び、それぞれの気候帯の特色を雨温図や資料から植生に触れながら読み取り、まとめることができる。	雨温図や資料からそれぞれの気候帯の違いや特色を読み取り、まとめることができる。 評価①	気温や降水量に着目して、気候帯の特色をまとめるように支援する。

(4) 展開

段階	指導内容	学習活動	指導上の留意点(◎)、活用場面(★) 習得の場面(○)、評価(■)
導入 10分	1 既習事項の確認	1 問題を出し、答える。	◎生徒に問題を出させ、それを答えさせることで、前時の振り返りができるようにする。
	2 5つの気候帯の確認	2 5つの気候帯の名称とその分布をおさえる。	○世界の気候が5つの気候帯に分けられることを確認し、その名称と分布を確認する。
	3 学習課題の設定	3 学習課題を把握する。	
	【学習課題】 世界旅行に行くとき、どのような服装や持ち物が必要か考えよう		
展開 35分	4 課題の予想	4 課題に対する予想 ・熱帯は半袖、短パン ・寒帯は手袋やカイロ	
	5 課題の追究 (1) 5つの気候帯の特色	5 課題を追究する (1) 雨温図や写真からそれぞれの気候帯の植生や特色を読み取り、まとめる。	○それぞれの気候帯の特色について、降水量や気温、植生の面からつかませる。 ■雨温図や資料からそれぞれの気候帯の違いや特色を読み取り、まとめることができる。 (評価①)
	(2) 世界各地への旅行の服装	(2) どのような服装や持ち物が必要か考える。 ・考えたことを発表し、お互いに交流する。	◎根拠をあげて考えさせる。 ★読み取った特色をもとに世界旅行に行くときの服装や持ち物を考え、発表する。 ■気候帯の特色から、その気候帯にあった服装や持ち物を考えることができる。 (評価②)
	6 世界各地への旅行の服装の確認	6 世界各地への旅行の服装を写真から確認する。	
終結 5分	7 本時の学習内容の振り返り	7 学習を振り返って、達成状況と感想を記入する。	◎学習した用語を使って、感想を記入させる。
	8 次時の学習項目の提示	8 次時の学習項目を把握する。	